令和5年度　城山地区地域活性化事業交付金　交付決定事業

令和5年9月30日現在

No.	事業等の名称	団体名	事業の概要			交付決定年月日	事業費（単位：円）		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付額
1	しろやま☆おせっかい	城山地区まちづくり会議 高齢者とともに築き支える地域づくり部会	城山地区では、高齢者サロンや健康体操など、地域における交流活動が活発に展開されている。しかしながら、生活様式や個人の価値観の多様化などにより、自治会、シニアクラブ、その他さまざまな交流活動の場など地域社会との直接的な関わりを持たない高齢者も増加していると感じている。そうした中、地域社会との積極的な関わりを望まない人に対しては、誰かと繋がっているという安心感が得られるようなゆるやかな見守りの仕組みが必要であると感じ、令和2年度に「みんなで気づかいあうまち・城山」そんな“おせっかい風土”を広めようと考え、異変に気付くためのポイントを示したチラシ「しろやま☆おせっかい」を民生委員児童委員協議会の協力により城山地区内各戸に配付した。	城山地区内の住民が少しだけおせっかいになり、周囲への直接的な声かけのほか、目配せや気配りによる間接的な見守りの意識を醸成し、地域全体に浸透させ、誰も取り残されない、取り残さない”しろやま☆SDGs”の街を形成するため、今回は城山地区の住民の方々と実際に地区内を回り、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への声かけと併せて、声かけによらない目配せ・気配りによる異変の有無の確認などを通じて“おせっかい風土”をさらに広め根づかせる。	令和2年度に城山地区内の住民が少しだけおせっかいになり、周囲への目配せや気配りによる間接的な見守りの意識を醸成し、地域全体に浸透させるためのPR用チラシ等を作成し、地区内全世帯への配付を行った。今回は、“おせっかい風土”をさらに広め根づかせるため、城山地区の住民（在学・在勤を含む）から参加者を募り、実際に地区内を回って、まちのいろいろな表情（風景）をながめながら、周囲への何気ない声かけと併せて、声かけによらない目配せや気配りを行う「まちかどウォッチング」を実施し、参加者への「おせっかいバッチ」の配付を通じて取組の連帯意識の向上を図る。 また、「まちかどウォッチング」実施後には、地域情報紙や区ホームページなどで活動報告を行い、「しろやま☆おせっかい」の活動を広め根づかせていく。	R5.4.28	120,000	120,000	120,000
2	城山湖ヒルクライムアタック雌龍籠山ステージ	城山湖ヒルクライム実行委員会	・城山地区が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会自転車ロードレース競技のコースとなったことから、城山地区の地域資源を活用した事業を実施することで城山地区の魅力発信、城山地区のシビックプライドの醸成に繋げていく必要がある。 ・大会後のレガシーとして、ツアー・オブ・ジャパン相模原ステージと共にシティプロモーションの推進、シビックプライドの醸成等に繋げる。 ・自転車（ロードレース）における名所として、城山地区の魅力発信と知名度の向上を図る。	・参加選手は練習に訪れたりするため、通年の訪問者を増やし、城山地区の魅力の発信と知名度向上に繋げる。 ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会自転車ロードレース競技の大会後のレガシーとして、自転車ロードレース競技の普及及び城山地区の魅力発信と知名度向上を図る。 ・市民が主体となって「城山地区のために!!」をスローガンとして地域内住民の連携強化を図る。 ・スタッフも楽しめるイベントとし、地域連携、事業参加の楽しさや重要性を市民に体感していただく。	・国道413号都井沢交差点上の市道松風都井沢のうち、全長2kmのコース設定を行い、自転車の登坂タイムを競うレースを実施する。短距離競技は攻略の難易度が高く、参加者が飽きずに毎年挑めるものとなります。 ・前回の結果を踏まえ、課題であるスタート地点の音響やアナウンス、スタート方法を充実させ、待機選手の気分高揚を図る。 ・発電所敷地内は路面、見通し共に良好なため、競技中選手、待機選手、市民が一体となった盛り上がりをみせるゾーンとなるよう工夫をする。	R5.4.28	855,600	350,000	350,000
3	みんなの津久井湖夏祭り	みんなの津久井湖夏祭り実行委員会	①津久井湖城山公園（水の苑地）は城山地区の中で代表する風光明媚な観光スポットであるが、地区外の方の知名度が低く、津久井湖城山公園（花の苑地）に比べ観光施設が無いことや、イベントも少ないことから観光客が少ない。このことから水の苑地を活用したイベントを実施することにより、地域の魅力を発信し、知名度の向上を図り、地域の活性化につなげていく。 ②城山地区では各地域において様々なイベントが開催され、多くの地域においてスタッフの高齢化が進み、イベントの縮小や廃止がおきていることから、若手のリーダーや地域における公共的な活動の担い手の育成が必要である。 ③昨年第１回みんなの津久井湖夏祭りを実施したが、計画の3倍以上の来場者があり、駐車場と警備体制の不足から公共交通機関の渋滞を招いてしまった。この反省から、駐車場の確保や交通警備員の増強を図り、安全かつスムーズな交通処理を行い、参加者に安心して楽しんでいただけるようなイベントに造成する必要がある。	①第１回の時に遠方からのサイクリストで、イベントに参加された方から城山にはこんな素晴らしい所が有るんだ、仲間にも紹介しよう、と言う方がおられました。イベントを通じて津久井湖（水の苑地）、そして広く城山地区の魅力と伝統文化を知っていただく。 ②このイベントは若者が中心になって、広くボランティアを募り市民参加型のイベントを目的としている。（実行委員長が女性で30代、副実行委員長は20代男性等、多くの実行委員は若手となっている。）また大学生や高校生のボランティアも多い。本イベントを通じて若手スタッフが育ち、地域における公共的な活動の担い手となって活動することを目指す。 ③前回はキッチンカ―による出店が中心であったが、今回はテントを用意し地元の飲食店に優先的に出店していただき、地域の経済活動の活性化の一助となることを目指す。	（1）伝統芸能披露（お囃子の演奏等） （2）キッチンカーやテントでの軽食及び雑貨等の販売 （3）ステージでのパフォーマンス （4）竹灯ろうによるライトアップ （5）参加型フォトブースの設置 （6）花火 （7）環境美化活動（ゴミ拾い）翌日実施	R5.4.28	2,341,000	578,000	578,000

No.	事業等の名称	団体名	事業の概要			交付決定年月日	事業費（単位：円）		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付額
4	つくい湖湖上祭	つくい湖湖上祭実行委員会	つくい湖湖上祭は地域の方に支えられ冬の風物詩として定着してきた。2020年より新型コロナウイルス感染症の猛威により様々なお祭りやイベント等が軒並み中止となり、つくい湖湖上祭も2020年及び2021年は中止となった。また、2022年は開催したものの、開催できるか不透明な状況で準備を進め、結果として来場者数は減少した。しかし、新型コロナウイルス感染症も5類感染症に移行し、ようやく明るい兆しが見えてきた。再び以前の様な活気を取り戻し、つくい地域の輝かしい未来につなげる必要があると考えている。 　このイベントは、津久井地域に限らず、広く様々な地域の人に愛され、緑区を代表するような区民祭となることをめざしており、そのためには、より多くの方に来場いただくことが必要である。しかしながら、会場である県立津久井湖城山公園水の苑地への主要な公共交通機関は路線バスのみであり、また、地理的環境から自家用車での来場が多いため、駐車場の確保・拡充が課題となっている。 　今後もイベントを充実・発展させていくことを考えると、会場の周辺での駐車場確保には限界があることから、今回は、この区民祭を目指した成長への一歩として、遠隔地での駐車場確保とシャトルバスの活用による交通渋滞の緩和及び来場者の快適性・安全性の向上と併せた来場者の確保対策に取り組むこととした。	つくい湖湖上祭は、地域の輪が花火のように丸く大きく広がること、そして地域の魅力を最大限に伝え、未来を担う子どもたちに「つくい」という名を末々に継承し、津久井地域に限らず、橋本、大沢地区の方々を含めた区民祭として愛されるような湖上祭をめざしている。	体験型イベント：消防関係車両・建設関係車両・トヨタ車両 飲食ブース出店：約20店舗の旧つくい地域中心の飲食店ブース ステージイベント：相模原市出身の歌手、芸人、ダンサーによるステージ、津久井湖面での花火大会 地域活性化事業交付金事業： ・川尻小学校グラウンド及び中野小学校グラウンドからイベント会場までのシャトルバス運行2台　随時運行 ・川尻小学校グラウンド及び中野小学校グラウンドの警備員の配置4人	R5.9.29	5,697,167	250,000	250,000
							9,013,767	1,298,000	1,298,000